



2024年4月2日

各位

会社名 株式会社プロジェクトホールディングス
代表者名 代表取締役 社長執行役員 CEO 土井 悠之介
(コード：9246 東証グロース市場)
問合せ先 取締役 常務執行役員 CFO 松村 諒
(TEL：03-6459-1025)

2023年12月期 通期決算に関する質疑応答集

当社の2023年12月期通期決算などに関して、株主・投資家の皆さまよりいただいた主なご意見・ご質問と当社からの回答を下記の通りお知らせいたします。

なお、本開示は株主・投資家の皆さまへの情報発信の強化とフェアディスクロージャーを目的に、当社が自主的に行うものです。回答内容については、時点のずれによって多少の齟齬が生じる可能性がございますが、直近の回答内容を最新の当社の方針として記載しております。

記

事業環境に関する質問

Q1. DX 関連業界の市場の伸びが鈍化している印象もあるが、当社においても需要が減少している状況か。

A1. 当社としては、事業会社における DX の戦略検討が一段落しつつあり、徐々に実行フェーズに移っており、実行フェーズでは一般に戦略検討フェーズほどはコンサルタント予算を割きづらいことが、市場の伸びの鈍化として見えているものと捉えています。

当社は、比較的リーズナブルな価格で事業グロースの実行フェーズを伴走支援するポジショニングによって大手コンサルティング会社との差別化を図っており、当社サービスへの需要は引き続き強い中、足元ではコンサルタント数が若干減少してしまった供給面の問題からお客様からの引き合いに込めきれない状況です。従って、内部の組織体制を整えることで、差別化しているポジショニングで今後も事業を拡大できると考えています。

Q2. 2023年9月に前代表取締役副社長の辞任に至った経緯を理由とした契約解除などは起きているか。

A2. 現状、コンプライアンス面を直接の理由として契約を解除されたという事例はありません。但し、12月末に約15名が退職するなど我々の体制起因でプロジェクトが終了となった事例は一定程度ございます。

Q3. 大手総合コンサルティング会社と比較した際の当社の強みは何か。

A3. 2024年3月1日に公表した「[事業計画及び成長可能性に関する事項](#)」p.16にも記載しておりますように、プロジェクト単位で体制を組んで成果を出していく大手コンサルティング会社に対し、当社は顧客の実務現場に入り込んで、伴走しながら事業のグロースを支援するスタイルである点が、大きな差別化要素であると考えております。実行フェーズの支援であることも踏まえ、比較的リーズナブルな単価で長い期間を掛けて、実際にビジネス成果を出すところまでを推進することを重視しています。

組織に関する質問

Q4. 12月末に約15名の退職者が発生したとのことだが、マネージャーにも退職が発生しているか。

- A4. 執行役員1名を含む、数名のマネージャー人材の退職が発生しています。不祥事を起こしてしまった会社に対して、どうしても不信感を拭えず残念ながら退職に至ってしまったものと認識しています。2024年度第1四半期までは、一定程度の離職が続くことを見込んでおりますが、以降は不祥事起因での離職は沈静化する想定をしております（逆に離職率が高位に推移する場合は、不祥事以外を理由とするものと考えます）。

Q5. 2023年上期から継続して離職率が高位にある理由と対応状況を教えてください。

- A5. 2023年度の第1四半期から当社の組織規模が急拡大する中で、メンバー育成を中心とする負担が一部の人員に集中したことなどを要因に、離職数が高位に推移してしまいました。これまで、ベンチャーフェーズの企業として事業成長を重視する制度設計としておりましたが、これは企業成長に一定の成果をもたらした一方、規模拡大によって組織フェーズが変わった中でフィットしなくなったものと考えております。2024年1月より、数値目標の達成だけでなく個人の能力成長や部下育成を評価軸に加える評価制度の改定や、賃金上昇を含めた給与テーブルの刷新を通じて、分かりやすさ・透明性を重視した人事評価制度の改革を実施しており、効果を毎月の従業員サーベイや離職率によって今後計測していく予定です。

Q6. 2023年9月の前代表取締役副社長の辞任に至る経緯は、採用活動に影響していないか。

- A6. 中途採用・新卒採用とも、不祥事の影響はゼロではなく、検討段階で当社を避けようという行動をされている候補者の方々は一定数いらっしゃるものと想定しています。一方で、採用面談時には当該不祥事の経緯と対策を丁寧に説明するなどにより、入社決定人数は増加しております（デジタルトランスフォーメーション事業において、2023年度第4四半期3か月間の入社人数4名に対し、2024年度第1四半期3か月間に13名が入社）。

今後の業績見通しに関する質問

Q7. 今期の業績予想では営業利益が2.5億円と大きく減少するとのことだが、時期による変動はあるか。

- A7. 今期の営業利益予想を大幅減益とした背景として、Q4にも記載した12月末にマネージャー複数名を含む離職が発生し、一部はパートナーによる代替を進めたものの1月のスタートラインが落ち込んでしまったことがございます。採用を着実に進めつつ、離職率を抑制していくことで期中では成長軌道に乗せていく計画ですが、地代家賃をはじめとする固定費や、来年度以降を見込んだ採用費などの投資計画を踏まえると、売上の伸長に伴って営業利益は下期偏重となることを想定しております。

Q8. 過去に業績予想の上方修正・下方修正があったが、業績予想の考え方を教えてください。

- A8. まず過去の業績予想の修正については、業績が月や四半期の単位で大きく変動しているというよりは、急速に成長してきた2022年に上方修正を、規模拡大に伴って組織フェーズが遷移し、成長モデルに限界が来てしまった2023年に下方修正を行ったことが経緯となります。従って、業績予想の作成時に過度に悲観的・楽観的な計画とはしていません。当社は2024年1月より純粋持株会社化しており、グループ会社の状況を各種KPIによりモニタリングし業績計画の達成を支援していくことが持株会社としての役割と認識しております。今後、プロジェクトホールディングスとしては、業績進捗をコントロールすることでサプライズのない決算を目指していく所存です。

その他の質問

Q9. 高額な新オフィスに入居する合理性はあるのか。

A9. 麻布台ヒルズの新オフィスについては、恐縮ながら貸主様との機密保持契約があるため全てを開示できるものではありませんが、契約上、早期に解約するには違約金が掛かることとなっており*、代替手段である再移転は、麻布台ヒルズの将来家賃を大きく超える費用抛出が伴う点で、合理性が無いと判断しております。 ※早期解約時の違約金の規定は、オフィス賃貸借において一般的な内容となります

なお補足として、オフィスが複数拠点に分かれていた昨年、社内のコミュニケーションコストが上がり一体感も失われていたという反省があり、今回移転を契機に1フロアでグループ全体を集約できたこと、また当社事業の肝となる人材採用においてブランディングにつながり、実際に中途採用数が比較的好調に推移していることなど、単なる営業費用ではなく将来に向けた投資と捉えた場合に得られる効果は少ないものと考えております。

Q10. 株価が低迷しているが、経営としてどのように捉えているか。

A10. 直近の株価については、まず、大きく株価が下がっているのは事実であり不甲斐なく、また株主の皆様には大変申し訳なく存じます。一方で、公表している2024年度の単年度業績予想のみを鑑みると、現在の株価は過度に低い水準ではないこともまた、事実と捉えております。しかしながら、同様に公表している3か年の業績見通しに照らせば、来年度以降に再成長していくことは織り込まれておりません。裏を返せば、今期に営業利益2.5億円という厳しい業績予想を出している中で、来年度以降の成長可能性について、投資家の皆さまから見ると大いに懐疑的であるということとなります。そこを結果で見せていく、すなわち再成長できるということを今後の業績で見せていくことで、この3か年の業績見通しに信任を得て、付随して株価が再上昇していくことを当社としては目指します。中長期的な成長軌道の回復に向けての仕込みの時期である以上、短期的な株価のためだけの対策は、実行したとて効果は限定されてしまうものと捉えており、現時点では実施の予定はございませんが、投資家の皆さま向けの情報発信の強化など、中長期的に当社の企業価値向上に資する施策について積極的に進めてまいります。

以上

IR担当よりお知らせ

2024年3月より、当社はメディアプラットフォームnoteにて「IR note マガジン」に参画しました。投資家の皆さまに、当社について理解を深めていただけるような情報発信を定期的に行っていく予定です。ぜひ「IR note マガジン」や「プロジェクトホールディングスnote」をフォローいただけますと幸いです。

「IR note マガジン」とは

IR note マガジンは、株式会社ツクルバが発案しnote株式会社と共に中心となって立ち上げた、企業の枠を超えた共創により投資家の皆さまにIR記事を届ける新しい試みです。投資家の方は「IR note マガジン」をフォローすることで参加企業のIR記事の掲載通知を受け取ることができます。「IR note マガジン」の参加企業数は、当社の参画により合計75社となりました。

[IR note マガジン](#)



[プロジェクトホールディングスnote](#)

